

#### 4 教育課程等の概要

## 教育課程等の概要

(国際コミュニケーション研究科国際コミュニケーション専攻)

| 科目区分  | 授業科目の名称         | 配当年次 | 単位数       |    |    | 授業形態 |          |       | 専任教員等の配置 |     |    |    |    | 備考 |    |    |  |
|---|-----------------|------|-----------|----|----|------|----------|-------|----------|-----|----|----|----|----|----|----|--|
|   |                 |      | 必修        | 選択 | 自由 | 講義   | 演習       | 実験・実習 | 教授       | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 |    |    |    |  |
| コミュニケーション<br>関連研究科目   | 国際コミュニケーション特殊研究 | 1・2前 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
|   | 国際文化交流特殊研究      | 2・3後 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
|   | 国際関係特殊研究        | 2・3後 |           | 2  |    |      | ○        |       |          |     |    |    |    |    | 兼1 | 集中 |  |
|   | 国際ビジネス特殊研究      | 2・3後 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    | 兼1 | 共同 |  |
|   | 国際情勢特殊研究        | 2・3前 |           | 2  |    |      | ○        |       |          |     |    |    |    |    | 兼1 |    |  |
| 小計(5科目)   |                 | —    | —         | 10 | —  |      | —        |       | 3        | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 兼3 | —  |  |
| 言語研究科目  | 日本語特殊研究1        | 1・2前 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
|   | 日本語特殊研究2        | 1・2後 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
|   | 中国語特殊研究         | 1・2前 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
|   | 英語特殊研究          | 1・2前 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
| 小計(4科目)   |                 | —    | —         | 8  | —  |      | —        |       | 3        | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | —  |  |
| 文化研究科目  | 日本文化特殊研究1       | 1・2後 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
|   | 日本文化特殊研究2       | 2・3後 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
|   | 中国文化特殊研究        | 1・2前 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
|   | 英語圏文化特殊研究       | 1・2後 |           | 2  |    |      | ○        |       | 1        |     |    |    |    |    |    |    |  |
| 小計(4科目)   |                 | —    | —         | 8  | —  |      | —        |       | 4        | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | —  |  |
| (研究指導)  |                 | 1~3  | —         | —  | —  |      | —        |       | 8        | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | —  |  |
| 合計(13科目)  |                 | —    |           | 26 |    |      | —        |       | 8        | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 兼3 | —  |  |
| 学位又は称号  | 博士(国際コミュニケーション) |      | 学位又は学科の分野 |    |    |      | 文学関係     |       |          |     |    |    |    |    |    |    |  |
| 卒業要件及び履修方法  |                 |      |           |    |    |      | 授業期間等    |       |          |     |    |    |    |    |    |    |  |
| 修了要件：コミュニケーション関連研究科目より選択必修2単位以上、言語研究科目より選択必修2単位以上、文化研究科目より選択必修2単位以上、上記3つの科目区分で合計8単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で博士論文を提出したのち、本大学院が行う博士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。<br>(履修登録の上限：6単位(年間)) |                 |      |           |    |    |      | 1学年の学期区分 |       |          | 2期  |    |    |    |    |    |    |  |
|   |                 |      |           |    |    |      | 1学期の授業期間 |       |          | 15週 |    |    |    |    |    |    |  |
|   |                 |      |           |    |    |      | 1時限の授業時間 |       |          | 90分 |    |    |    |    |    |    |  |

## 5 授業科目の概要

| 授 業 科 目 の 概 要                     |                 |   |    |
|-----------------------------------|-----------------|---|----|
| (国際コミュニケーション研究科国際コミュニケーション専攻) (D) |                 |   |    |
| 科目区分                              | 授業科目の名称         | 講義等の内容  | 備考 |
| コミュニケーション関連研究科目                   | 国際コミュニケーション特殊研究 | 情報通信技術の発展に伴う国際コミュニケーションの変化とその影響について考察する。具体的には国民国家のあり様とナショナル・アイデンティティの揺らぎ、新たな主権概念の登場、国際的な情報格差と情報流通の不均衡の是正のための秩序形成。先進諸国によるメディア市場の支配、開発コミュニケーションのパラダイム・シフト、グローバル化等を取り上げ、これからの問題の要因と背景等について国際コミュニケーション論に依拠しながら分析を試みる。テーマに沿って院生に報告発表してもらい、それに関するディスカッションを通して当該分野の研究への理解を深化させる。 |    |
|                                   | 国際文化交流特殊研究      | 国際化に伴い国際文化交流を全く考えずして、社会・文化を考察することは難しくなっている。この特殊研究では文化芸術を中心に、「文学」「演劇」「メディア芸術」の分野から国際文化交流、そこから派生する諸事象を取り上げ、クール・ジャパンに関する先行研究文献の確認を行い、研究方法を提示したい。インターネット検索の活用も取り上げる一方、資料等については現物主義をモットーにリサーチの手法を含め、その重要性についても触れる。   |    |
|                                   | 国際関係特殊研究        | 日中英語圏を中心としたグローバルな未来関係を切り開く優秀な人材を育成するには高い視野に立って考察することが必要となっている。そのためには歴史書物、歴史文献の研究と現地調査を重視し、新しい視野で日中英語圏の関係を考察し、過去、現在の関係を総括し、未来交流を切り開く視点で指導を行う。この国際関係特殊研究では先行研究文献を紹介しながら、研究方法を提示したい。必要に応じた内容で発表させることも取り入れる。  | 集中 |
|                                   | 国際ビジネス特殊研究      | 競争力強化への組織変革に関する主要課題についての授業とそれに関連するケース研究とを組み合わせる形式で進める。世界85カ国で活用されているPerformance Excellence Modelの概念をもとに理論開発した経営品質向上メカニズムモデルを習得し、事例企業演習を深く分析することを通して、企業競争力向上のメカニズムと実践的手順の理解を深める。   | 共同 |
|                                   | 国際情勢特殊研究        | 米中2極構造下での日本をめぐる国際情勢と今後の日本の役割を考察する。又、パワー・ポリティクスの国際的動向の過程で、日本の果たすべき役割、貢献について考えていく。そして講義やディスカッションを通じて、国際社会の過去・現在の本質を考える機会を提供する。  |    |
|                                   | 日本語特殊研究1        | 院政・鎌倉時代に平安時代の和文脈語と漢文訓読語とさらには当時の俗語との混交によって生じた新文体、すなわち和漢混交文における音韻・語彙・語法(文法)に留意し多角的に考察する。文献としては『平家物語』をはじめとする軍記物語や『今昔物語』をはじめとする説話集などを取り扱う。受講生には上記の目的に沿った様々な資料に触れる機会を与え指導する。   |    |
|                                   | 日本語特殊研究2        | 古代日本語から近・現代日本語への変遷の過渡的時期は中世後期の室町時代である。この時代は言文(話し言葉と書き言葉)が二途に完全に乖離し、それぞれ独自の道を辿っているが、特に口語の世界においては顕著な変化が現れる。本授業では室町時代の三大口語資料の一つであるキリシタン資料の「イソップのフェアラス」(いわゆるイソップ童話を基にした話)を資料として、古代日本語から近・現代日本語への変遷の姿を分析し、現代日本語の諸問題を捉え考察し、小論文テーマとしてまとめられることを目標とする。                             |    |

|            |   |  |
|------------|---|--|
| 中国語特殊研究    | 中国語コミュニケーションの能力を磨くことを目標とし、日中文化事情、日本人と中国人のものの考え方、行動様式を取り上げ、中国語と日本語の対照研究により、両言語の特徴を明確にすることである。異文化コミュニケーションの諸理論を依拠しながら、人間、言語、文化の関連事例を分析し、日中コミュニケーションの問題点、発生要因を考察し、解決策を探る。  |  |
| 英語特殊研究     | <p>(英文) The wider the English speaking world expands, the deeper the diversity of the language becomes. More conversation in English is held between non-native speakers (NNSs), while native speakers (NSs) become less influential over their mother tongue. The English language itself has become more diverse and developed into "World Englishes" as distinct from the linguistic norms of NSs. Most NSs have realized this fact and tend to accept it. Understanding these situations which the English language is facing, the objective of future language acquisition should focus on the ability to communicate with both NSs and NNSs, accepting the language diversity of English. Through this course, in addition to understanding NSs English, students will better understand the characteristic structure, pronunciation, and vocabulary of NNSs English, enabling them to acquire upper level English proficiency in communicating with people from all corners of the globe.</p> <p>(和訳) 英語の世界が広がれば広がるほど、その多様性は深まり「World Englishes」として母語話者(NS)の手を離れ、非母語話者(NNS)間の活用頻度が高まり、独自の発達を遂げつつある。また、NSもその現実を受け入れる傾向にある。このような英語がおかれている現状を踏まえ、未来志向の英語習得はこの多様性を排除するのではなく、その言語的特質を理解し、対NS、対NNSの何れにも対応できる能力を目的としなければならない。基本はNS英語とし、その上にNNS英語の文法・発音・語彙の理解を深める考察をし、上級英語運用能力の向上を指導目標とする。</p> |  |
| 日本文化特殊研究 1 | 日本中世史の概観、同時代を描いた物語史料群が近世に入りいかなる受容のもと変容を遂げたか、その変化の根底にある日本人の家意識もしくは同族意識といった、現代日本人にも継承される特質を探り、現代とも対比しつつ設定した各テーマにそって研究成果を構築していくよう指導していく。   |  |
| 日本文化特殊研究 2 | 柳田國男は『明治大正史 世相編』の自序で「現代生活の横断面、すなわち毎日われわれの眼前に出ては消える事実のみに拠って、立派に歴史は書けるものだと思っている」と説いた。世相史を民俗学の視点で論述を試みた柳田國男のその著を講読しながら、その世相が昭和から平成への時代推移を通してどう変遷していったのか、異文化の影響を受けたあらたな文化資料の発掘等を試み、その考察を通して、日本の生活文化を研究し、理解を深めていく。   |  |
| 中国文化特殊研究   | 養生文化を通して日中英語圏文化を考察する。中国の養生文化がどのように日本に影響を与え、その後、アメリカ等の健康志向にどのような影響を与えたのか、又、特に明治以降の養生に関する考え方について、日本、中国、英語圏における先行研究の土台の上で、それぞれの自分の問題意識と研究手法を考える。中国を起点にして、養生文化を研究し、理解を深めていく。  |  |

|   |                  |   |  |
|---|------------------|---|--|
| <p style="text-align: center;">文化<br/>研究<br/>科目</p> | <p>英語圏文化特殊研究</p> | <p>(英文) Expressions and strategies in advertising have been drastically changed in accordance with the development of media, such as from the printing of newspapers and magazines to electronics such as radio, television and the Internet. Therefore, it can be said that advertising works as a mirror reflecting society. An obvious example is that of cigarette advertising which used to be widely accepted, but it has been completely banned from most forms of media these days because smoking is considered to be a major cause of lung cancer. Advertising, especially TV commercials in English speaking countries, for example, are indication of characteristics of the English language and culture of the society in which they are televised. Utilizing commercials which have been collected in such English speaking countries as the U.S., Canada, and Australia, students are able to analyze them for the purposes of studying linguistic characteristics, such as "play on words" and "innuendo," and at the same time, studying regional differences introduced through various video locations. Through these learning activities, students will better understand cultures of the English speaking world.</p> <p>(和訳) 印刷メディアから電子メディアへと媒体の発展に伴い広告における表現は大いに変化している。また、広告は世相を映す鏡としての役割もあわせ持つ。ファッションとして持てはやされていたタバコ広告が、今日では肺がんの原因として一切メディアから一掃されてしまうなどはその良い例である。英語圏における広告、特にコマーシャルは、その国・地域の生活文化・言語の特質を理解するバロメーターとして大いに有効である。英語圏、特にアメリカ、カナダ、オーストラリアで現地収集したテレビ・コマーシャルを資料とし、特に「Play on words(しゃれ)」、「Innuendo(皮肉)」といった言語的特性と、映像表現などによる地域的文化特性の分析研究を試み、その考察を通して、英語圏文化の理解を深める。</p> |  |
| <p style="text-align: center;">(研究指導)</p>           | <p>(研究指導)</p>    | <p>(概要)</p> <p>日中英語圏に関するコミュニケーションについて、研究の実践、指導を行い、国際コミュニケーションの緒論に対して論文指導を行う。</p> <p>(1 高橋暢雄)</p> <p>国際ビジネスを主眼としながらも、政治学、国際関係論等を踏まえ、日中英語圏の異文化におけるビジネス展開と、諸問題の実務的対応について課題を設定し、在学期間中に博士論文提出を念頭に入れ、論文指導を行う。</p> <p>(2 佐々木隆)</p> <p>特に演劇・メディア芸術・文化等を中心にした国際文化交流は、国境を越え、社会・文化・伝統や価値観等に影響や変容をもたらす国際コミュニケーションの一事象ととらえ、クール・ジャパンや国際文化交流に関する論文指導を行う。</p> <p>(3 本多周爾)</p> <p>研究に際して、ヒューリスティックに取り組む視点と姿勢を養う。テーマとして国際コミュニケーションの量的、質的变化が、国際関係、当該国の政治変動、社会変動等に及ぼす影響の分析を取り上げ、論文指導を行う。</p> <p>(4 阿久澤忠)</p> <p>漢字を基軸とした日本語と中国語との関連性に考慮し、日本語の基礎的事柄と変遷についての知識を身に付けることを前提に、対象に即した研究方法の指導を通して、論文指導を行う。</p>   |  |

(5 謝心範)

日中関係と文化交流の現実問題に関心を持ちながら、日中交渉史・交流史・日中関係史など関連分野の先行研究調査を实践したうえで課題を選定し、論文指導を行う。

(6 青木雅幸)

(英文) Having an interest in English as a Lingua Franca, students will be fully guided to decide their research themes with originality, in which they can deepen their studies, accumulating more knowledge in advanced English expressions and vocabulary.

(和訳) リングア・フランカとしての英語に関心を持ちながら、上級英語の表現・語彙についての知識を深めることを前提に、研究を深められるオリジナリティのある具体的テーマを、院生と十分に検討の上、取り上げ論文指導を行う。

(7 林猛)

日本文化、とりわけ日本民俗学の研究成果に基づく生活文化等に関し、中国、英語圏の対象分野も視野に入れた諸研究事項に対し、研究を深められる具体的テーマを精査して取り上げ、資料の積み上げや分析方法も用いて論文指導を行う。

(8 高橋恵美子)

日本中世及び近世で使用されていた日本語から言語的な現代までの変遷を中心にした日本文化の研究を目指す論文指導の補助を行う。